

(メッセ海外通信 2007年7→9月号掲載記事)

～青島市の交通事情について～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
白野 哲

2008年は北京オリンピック開催年です。今大会は環境に配慮したオリンピックすなわちクリーンオリンピックの開催がテーマに掲げられ、北京を除く唯一の開催都市として、青島では様々な取組が行われています。その中でも特に力を入れているテーマの一つに、公共交通機関の充実が挙げられます。

中国の交通手段と聞けば自転車を思い浮かべる方も多いでしょう。しかし、ここ青島においては自転車での走行を見かけることはほとんどありません。なぜなら、青島は非常に起伏の多い地形に位置するため、自転車での走行に不向きな土地柄なのです。そのため、自転車の代わりに市民の足として広く利用されてきたのがバスです。青島のバス網は市内隅々まで行き届いており、非常に便利です。しかし、マイカーの激増により市内の主要道は常に渋滞していて、バスの運行に支障をきたしている状況です。主要公共機関であるバスの遅れは、オリンピック開催に大きな影響を及ぼす恐れがあるため、コンピュータによるバスの中央制御システムの構築が進められています。

このシステムでは、運転席に設置されたコンピュータにより中央制御室との連絡が常時可能であり、バスに異常がある際は自動的に警察への通報が行われ、交通事故においては1分以内に中央制御室へ連絡が入るようになっていました。また、搭載されたGPSにより運行状況が逐次把握できるようになっており、中央制御室の管理により途切れることなくバスを運行することが可能になりました。しかし、システムを効率よく稼働させるためには、すべてのバスへの配備が課題とされており、年内にすべてのバスへの配備が完了する予定です。また、このシステムは超過速度等の交通違反も管理できるため、正常運行ばかりでなくバスの安全走行にも大きく寄与し、交通事故は導入前の50パーセント近くまで減少するなど大きな成果を上げています。

IT化は車体のみならず、ICカードによる料金システムの導入や、停留所への電子掲示板の配置など広く進められ、得られた情報は一層のサービス向上に役立てられています。ちなみに現在停留所にはバスの時刻表は存在せず、始発と終発の時間のみ記載されています。時間に細かい筆者としては一刻も早い電子掲示板の設置を願う所です。



公共交通機関を充実させる一方で、クリーンオリンピックの精神に基づきマイカーの利用を抑制する取り組みも同時に行われています。9月17日からの1週間を“バスウィーク”と定め、すべての公務員が公共交通機関を利用して出勤したり、9月22日を“ノーカーデー”と定め、走行禁止エリアを設けるなど広く市民にマイカー利用の自粛を促しているところです。なかには徒歩での移動を推奨するため、みんなでジョギングを行おうという取り組みもあります。

これらの取り組みが実を結び、友好都市青島で開催されるオリンピックが盛大に成功をすることを祈るところです。